



“ぶどうの達人” になりませんか

北条支所ぶどう生産部は
新規栽培者
あなたを待っています

▼準備するもの

▽農業に対する情熱 ▽健康 ▽開業資金

まずは相談から

鳥取中央農協北条支所（ぶどう担当）

TEL: 0 8 5 8 - 3 6 - 3 3 2 2

○支援制度について

- ・ 就農前の栽培技術の習得は研修制度（1～2年）があります（要件、審査あり）。
- ・ 研修中や就農後の支援などの各種制度があります（要件あり）。

【相談から就農まで関係機関が連携してしっかりサポートします。】

ブドウの主な作業

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
せん定												
枝の管理(摘心、誘引)												
房つくり(整形、ジベ処理、摘粒)												
収穫												
土壌改良												
ハウス管理(被覆、温度管理)												

○デラウェア、巨峰、ピオーネ、シャインマスカットを組み合わせて栽培しています。

経営試算

10a当たりの目標所得

	10a当たり収量	Kg単価(円)	売上	支出	所得(円)
シャインマスカット	1,500	1,500	2,250,000	1,400,000	850,000
ピオーネ	1,500	1,300	1,950,000	1,300,000	650,000
巨峰	1,500	1,200	1,800,000	1,300,000	500,000
デラウェア	1,500	1,100	1,650,000	1,200,000	450,000

- 栽培面積は、1人当たり30a程度が目安です。
- 施設や機械の取得状況で試算は大きく変わります。
- ブドウは、冬期が農閑期になるため、秋冬ネギなどの野菜と組み合わせた栽培体系が多いです。

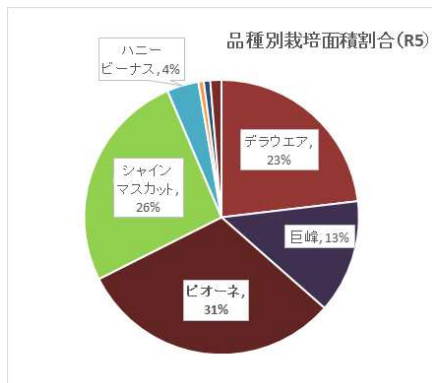
鳥取中央農協北条支所ぶどう生産部の概要



北条砂丘ぶどうは、天神川流域に広がる日本海に面した砂丘地で栽培されています。朝夕の寒暖差が大きく、水はけもよいためブドウ栽培に適しています。

北条地域でのぶどう栽培は、明治42年頃に植え付けた「甲州」ぶどうがその起源です。以来、北条地域では砂丘地農業の主力品目として、ぶどうが栽培され続け、平成21年には100周年を迎えました。

・品種更新の歴史



北条地域のぶどうは「甲州」から始まりましたが、現在に至るまで幾度もの品種更新を繰り返してきました。

昭和30年代には「デラウェア」と「ネオマスカット」が増殖され、昭和37年には「デラウェア」のジベレリン処理による種なし化の成功とハウス栽培化が始まりました。昭和40年代に入ると、高級で大玉の「巨峰」が中心となり、栽培技術の確立とともに「巨峰」の産地となり、昭和の後半から平成にかけては「ピオーネ」が導入されました。

平成13年には青ぶどうの「ハニービーナス」導入され、平成20年からは、現在、全国的にも知名度が高まってきている「シャインマスカット」の栽培面積が増加しています。

・灌水施設

北条地域では昭和27年に始まった北条砂丘地区の土地改良事業により灌水の基盤整備から施設の自動化、施設の更新と、それぞれの時代のニーズに沿った事業が展開され、地区別・時間別の散水を行う現在の栽培環境が整備され、ぶどう栽培に活用されています。

・生産・指導体制

7月に出荷される「デラウェア」を皮切りに、盆前出荷が中心の「種なし巨峰」、「ピオーネ」、8月下旬から出荷が始まる「シャインマスカット」の4大品種の栽培に取り組んでいます。



指導体制は、指導員を置き栽培技術の普及、生育状況や病害虫の発生状況等を共有しています。また、作業毎に現地指導会を開催し、栽培技術の確認と普及を図っています。出荷前には査定会を開催し、選果基準の統一を図り有利販売に結びつけています。

また、省力化が図られる短梢栽培を導入し、これまで主流であった長梢栽培から短梢栽培への転換を進めています。



・おわりに

北条地域でぶどう栽培が始まってから100年以上の歴史を持つ『北条支所ぶどう生産部』の部員は日々ぶどう栽培に勤しんでいます。「自分たちの代で北条ぶどうを衰退させたくはない」の言葉は生産者の総意です。こうした思いを継承していただける人材を求めています。